

#### 01 円山川河口部・下流部 (城崎付近)

**保全** 円山川には潮止堰が無く、本川下流部は河口から10km以上も続く、県下最長の感潮域。最下流の支川である気比川の河口付近には、海浜植物群落やヨシ群落(鶴井地区)もあり、その面積は県下で最大級で、美しい河口域の植生景観を作り出している。



#### 02 城崎~豊岡の小支川

**課題** いずれの支川も低水護岸率が非常に高く、なかには三面張りの箇所も散在する。鎌谷川では夏季水温の本水系内の最高値が観測された。

#### 03 奈佐川

**課題** 上流部は低水護岸率、ならびに横断工作物の密度が高い。支川岩井川は三面張り。下流部は夏季最高水温がかなり上昇している。過去にはサケの遡上も確認されていた。

#### 04 円山川下流部 (豊岡付近)

**保全** オギ群落のまとまり度が県下で最大級の区間が豊岡で最大級の区間である。河川本来の美しい景観を保全していくことが望まれる。



#### 05 六方川

**保全** 県下で有数の緩流性希少種の生息場所。支川穴見川上流部でも希少な魚類が確認されている。中下流部は低水護岸率がほとんど無く、勾配が緩やかな小規模河川としては貴重な区間。

**課題** 外来魚のオオクチバスが侵入している。

#### 08 出石川水系上流部

**保全** 上流部には希少な魚類が生息する。オオサンショウウオの生息情報が多い。

**課題** 源流部や小支川では、低水護岸率が高く、三面張りの箇所も散在する。ほとんどの支川で魚道の無い横断工作物が高密度で存在する。

#### 10 稲葉川水系

**保全** 下流部は、比較的大きな蛇行部が残っており、山付き部が長い区間続いている。中流~上流の一部の地点で、水生昆虫を中心とした底生動物の確認種数が顕著に多い。

**課題** 小支川のほとんどは、魚道の無い横断工作物が高密度で存在する。低水護岸率の高い箇所が散在する。

#### 11 円山川中流部 (日高町~八鹿町付近)

**保全** 非常に大きな面積の淵が残っており、河川形態は中流域としては比較的良好。アユの産卵場が集中するほか、サケの産卵も確認されている。

**課題** 情報を得た名前のある淵の多くが矮小化傾向にあると回答された。

#### 13 八木川

**保全** 中流部には名前のある淵が多数残っているほか、一部には山付き部も認められた。比較的良好な河川形態が残っている。中流部には希少な魚が生息する。水系屈指のアユの好漁場。



**課題** 名前のある淵の多くは、矮小化傾向にあると回答された。源流部では、横断工作物がきわめて高い密度で存在する。

#### 14 大屋川

**保全** 中流部は魚道の無い横断工作物の密度が比較的小さい。上流部は、冷水性の底生動物の種数が水系内でもっとも多く確認された。水系屈指のアユの好漁場。

**課題** 中下流部では、河床に大型系状緑藻が繁茂している。

#### 15 建屋川

**保全** 水系内屈指のオオサンショウウオの多産地として知られている。

**課題** 改修に際して、オオサンショウウオへの先駆的な保全対策が実施された河川として知られているが、低水護岸率は山間河川としては顕著に高い。また、魚道の設置率は高いものの、横断工作物は高密度で存在する。

#### 16 田路川

**保全** 一部の地点で、水生昆虫を中心とした底生動物の確認種数が多い。オオサンショウウオの生息情報が多い。

**課題** 魚道の無い横断工作物が多い(ただし、田路川ではほとんどの施設は礫を埋め込んだ全面魚道に近い構造をもつ)。

#### 07 出石川中下流部

**保全** 大面積の淵がある程度存在しており、中流域としては、河川形態は比較的良好。下流部にはサケの産卵場がある。

#### 09 円山川中流域

**保全** 円山川中流域の景観を特徴付ける礫原が連続する区間。カワラハコを含む礫原植生が連続する景観を見ることができるのはこの区間だけである。さらに、その礫原の背後に成立するエノキ林のまとまり度も県下でトップクラスである。河川の縦断方向、横断方向に自然植生とその配列が観察できる貴重な場所である。



#### 12 円山川中上流部

**保全** 県管理区間に発達する礫原植生。赤崎のカワラハコ群落は、県下でも最大級であり、保全が望まれる。

#### 17 円山川上流部・与布土川・その他支川

**保全** オオサンショウウオの生息情報がある。

**課題** 本川と与布土川は、消失した「名前のある淵」が集中しており、河川形態の単調化が示唆された。与布土川水系では、全般に低水護岸率が高いうえ、源流部の支川では三面張り区間も散在し河川形態が単調である。その他の支川は、魚道の無い横断工作物が著しく多い。

**全体区分**

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

**魚類・底生動物の現地調査地点**

- 調査地点

**回遊種の確認上限**

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

**植生から見た流程区分**

- ツルヨシネコヤナギ型
- 移行帯
- オギ-ツルヨシ型
- 感潮域

**横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)**

- 魚道あり
- 魚道なし

**聞き調査による名前のある淵の現状**

- 無くなった
- 浅くなった/狭くなった
- 変わらない
- 不明

**予察調査による河川環境の記録**

- 課題が見つかった箇所